

平成27年度学内版 GP 成果報告書

取組名称	人文ホールから世界へ：信州松本に「世界」を集める～人文学的インターアクティブ PBL プログラムの起ち上げ	
実施組織 (または対象のカリキュラム)	人文学部(国際交流委員会)	
実施責任者(所属)	伊藤 盡 (人文学部)	
取組の目標	人文学部主催の多文化交流サロンにおいて、 ・研究者との対話形式のシンポジウムを開催し、 ・学生が対話聴講により国際意識を高め、 ・学生が問題発見をし、 ・学生が学修動機を高めつつ、 問題解決を目指す学修に取り組むと同時に、海外研修への関心が向上し、学生自身が授業にシンポジウムの内容を還元できる。	
1. 目標達成のために行った活動と成果 (箇条書きで項目ごとに番号を付けて記載。成果の詳細は必要に応じて別添とする)	1. 英語圏以外の国に関する対話形式のシンポジウムを開催し、学生に世界へのグローバルな視点を抱かせた。 (1) アイスランド大学アールニ・マグヌースソン写本研究所研究教授ウルヴァル・ブラガソン博士招聘 題目 'The Song of the Sibyl—<i>Völuspá</i>' (2015 年 4 月 10 日開催) 英語学分野の英語史基幹演習とのコラボレーション(参加者数 30 名) (2) 元人文学部 留学生で現在落語家シリル・コピーニ氏招聘 題目「フランス人落語家による落語の実演と楽しいトーク会」(2015 年 11 月 13 日開催) フランス言語文化分野 (参加者 50 名) (3) 京都大学人文科学研究所村上衛博士招聘(2015 年 11 月 27 日開催) 東洋史分野 (参加者 31 名) (4) 同志社大学大学院グローバル・スタディーズ研究科教授 内藤正典博士を招聘 (参加者 150 名)	
2. 目標達成度に関わる所見と今後の展望 (達成の度合いを選び、そう評価する理由と今後の展望を記述)	a. 達成できた	(そう評価する理由) 上記のとおり、企画した4回のシンポジウムには 30～150 名の参加があり、それぞれの企画担当者の授業との連関が密に行われた。特に1年生が専門教育の先取りと認識し、シンポジウム参加者が増え、国際的な活躍への動機付けが充分に行われたことが、授業の評価に結びついたことは、学部国際化に寄与したと言える。加えて、H28 年度の海外研修参加者に大幅な人数増を促した。 また、地元新聞にも講演会が紹介され、参加者が増えたばかりでなく、内外に信州大学人文学部の取組が紹介されたことは、グローバル教育を行う信州大学の地域への間接的な広報活動に繋てることができた。 (今後の展望) 国際交流委員会が主催する海外研修への参加者増が見込まれる。さらに、専門分野の学生への刺激となったため、人文学部の専任教員のグローバルな活躍が期待されている。具体的には、海外研究者やグローバルな活躍をする他大学研究者の招聘、合同研修の企画も加速される見込みである。